

2026年6月

【1分解説】ビハインド・ザ・カーブとは？

経済調査部 シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

ビハインド・ザ・カーブとは、中央銀行の政策対応が経済状況の変化に遅れ、市場などから「後手に回っている」と受け止められる状態を指します。インフレが強まっているにもかかわらず、利上げが遅れている場合に使用されることが多い言葉です。

この状態が問題視されるのは、対応が遅れるほど、後に急激な政策修正を迫られやすくなるためです。たとえば、物価上昇を一時的と判断して緩和的な金融環境を維持し、景気刺激的な状態が続けば、インフレが加速する恐れがあります。その場合、中央銀行は最終的により大幅な利上げを行わざるを得なくなります。資金調達コストの上昇を通じて企業投資や住宅需要が抑制され、株式市場にも調整圧力が及ぶでしょう。このように、対応の遅れは景気過熱とその後の急減速を招き、経済の変動を大きくするリスクがあります。

もっとも、ビハインド・ザ・カーブかどうかは、その時点では判断が難しい面もあります。物価上昇が一時的なのか、景気の力強さが本物なのかは、後になって初めて明確になることも多いためです。中央銀行の対応の遅れが経済の混乱を招くリスクがある一方、拙速な金融引き締めを行えば、景気を必要以上に悪化させる可能性もあります。中央銀行には、データを見極める慎重さと、必要なタイミングで動く機動力の両方が求められます。